

【試合結果】

男子 決勝トーナメント		決勝																
日時	2017年12月28日 (木)	13:00 ~																
会場	函館アリーナAコート																	
結果	札幌啓明中 札幌	<table border="0"> <tr><td>22</td><td>—</td><td>10</td></tr> <tr><td>19</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>13</td><td>—</td><td>2</td></tr> <tr><td>19</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table>	22	—	10	19	—	9	13	—	2	19	—	11		OT		苫小牧沼ノ端中 苫小牧
	22	—	10															
19	—	9																
13	—	2																
19	—	11																
	OT																	
審判	主審 佐藤淳	副審 松居晋吾																

第32回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

札幌啓明中		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	大山 榛也	×	13	1	5	0	2	0
5	星賀 舞也	×	10	0	5	0	9	1
6	山本 健太	/	0	0	0	0	0	0
7	西野 歩	/	0	0	0	0	0	0
8	高村 英汰	×	17	2	5	1	5	0
9	加藤 琉聖							
10	木村 陽太	×	17	0	6	5	7	1
11	泉山 蒼							
12	梅原 光生	×	12	2	3	0	2	1
13	寺崎 友寿							
14	村田 晴飛	/	4	0	2	0	0	1
15	酒井 颯太							
16	西川 壮太	/	0	0	0	0	0	0
17	板橋 虎風							
18	星野 龍生	DNP	0					
HC	永野 進							
合計			73	5	26	6	25	4

苫小牧沼ノ端中		苫小牧						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	中西 輝	×	2	0	1	0	3	3
5	亀井 柊吾	×	10	0	5	0	14	0
6	杉村 希竜	DNP	0					
7	小林 賢弥	×	2	0	1	0	0	1
8	島田 基希	DNP	0					
9	小幡 淳士							
10	鈴木 将悟	DNP	0					
11	浜田 哲才							
12	下村 和輝	×	16	5	0	1	0	3
13	大津 壱咲	/	2	0	1	0	2	0
14	山田 晃成	×	0	0	0	0	4	2
15	黒瀧 康平	/	0	0	0	0	0	0
16	玉上 虎太郎	DNP	0					
17	清水 翔矢							
18	館内 淳	DNP	0					
HC	蝦名 正憲							
合計			32	5	8	1	23	9

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

準決勝で札幌地区対決、苫小牧対決をそれぞれ制した札幌啓明と苫小牧沼ノ端の決勝戦となった。啓明#4,5,8,10,12、沼ノ端#4,5,7,12,14のスタート。啓明の速いリスタートから#8、4、12の連続8得点。対する沼ノ端はカッティングを繰り返しオフェンスを作り、#12の連続2本の3Pで応戦する。その後は1対1中心の攻防になり、啓明#5のミドルシュート、ドライブが決まり17-8となったところで、沼ノ端のタイムアウト。タイムアウト明けは、啓明#12の3Pやフリースロー、沼ノ端#5のタフショットが決まり、20-10で1Qを終える。2Q、お互いハーフマンツースでスタート。啓明は2対2からシュートチャンスを作り出し、オフェンスリバウンドで得点を狙う。沼ノ端はスペースに飛び込む#5が点をねじ込む。沼ノ端#7の3Pが決まり、28-16となったところで啓明のタイムアウト。次第に啓明中の走るペースが上がリ、#4がブレイクからジャンプシュートで得点する。沼ノ端は#12が3本目の3Pを決め追いつけるが、すぐに啓明#12が3Pを返す。たまたま沼ノ端タイムアウト。2Q終わり際に啓明#8が3Pを決め、41-19の22点啓明リードで前半終了。3Q、両者変わらずハーフマンツースでスタート。チャンスがあればトラップに行く啓明のディフェンスに沼ノ端は攻めあぐねる。何とか沼ノ端#5がドライブやリバウンドで攻める展開になる。3Q残り2分、啓明の速攻から#4が2本、#8が1本のレイアップシュートを決め、点差を突き放す。54-21で3Qを終える。4Q、何とか点差をつめたい沼ノ端中、#12の3Pで勝負に出るが、啓明の勢いは止まらない。#5のゴール下からミドルまで幅広いシュートレンジ、#10の強気にシュートまで行くドライブでファウルをもらい点数を重ねる。途中交代選手#14も最後までよく走り、2本のレイアップを決める。試合終了間際に、#12の5本目の3Pが入るが、73-32で試合終了。札幌啓明中の激しく守ってよく走るバスケットが南北海道大会を制した。両チームの決戦大会での活躍に期待したい。